

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|-------|--|
| 事業所番号 | 0471300327 | | |
| 法人名 | 有限会社 誠愛会 | | |
| 事業所名 | グループホーム SAKURA | ユニット名 | |
| 所在地 | 宮城県栗原市若柳字川北南砂押45 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年3月1日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年3月31日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームSAKURAは地域特性を生かしながら認知症高齢者共同生活介護事業を提供し、今年で開所から12年目を迎えます。当施設は県内のグループホームでは数少ない既存住宅を活用した造りになっており、そのためハード面では他事業所様とは見劣りする部分は多々ありますが、その分スタッフ丸となり当施設のモットーである一つ屋根の下でのひとつの家庭のような生活スタイルを重視し、温かみのある介護支援提供の実現に努めております。日頃から支えてくださる方々に感謝の気持ち“ありがとう”を大切に、笑いあり・涙あり・時には怒っても最後には笑う、その日々を送りながら生活されるご利用者様の表情・言動に着目していただければと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念を追求し、地域に根ざした運営を目指しており、建物や設備のハード面における弱い部分を、入居者に対する心の触れ合いを大切にされたケアで補っている。毎年、敬老のお祝いの会が、同じ法人内の他グループホームと合同で開催され、入居者同士の懐かしい時間を過ごしている。地域との結びつきを重く捉え、地域行事への参加や住民との交流を大事にしている。職員が地区の消防団に参加してホームの存在を発信しており、緊急時の支援も期待できる関係が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項 目 | | 取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印 | | 項 目 | | 取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印 | |
|-----|--|----------------------------|---|-----|---|----------------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:グループホームSAKURA)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 支えてくださる皆様への感謝の気持ちをスローガンを掲げて共有し、実践につなげている。 | 平成25年度のスローガンは「ありがとう」である。毎年皆で決めている。入居者から教えられることや家族がホームを頼ってくれていること、地域の優しい見守りに対する感謝の気持ちを「ありがとう」に込めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 管理者が地元で地域とのつながりがあり、事業所自体が地域の一員として交流している。また、定期的に民生委員や施設の運営推進委員が訪問していただき、利用者との交流を行っている。 | 先の震災の際には、民生委員の要請で地域の高齢者のために車椅子の貸し出しを行った。ホームの行事では、地区自治会からテーブルや椅子等を借りている。野菜や米の差し入れ等、日常的交流が頻繁である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域で開催されるお茶会に参加をし、事業所の説明や、地区担当の民生委員へアドバイスをしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 毎回ホームの入所・退所状況の報告を行い、推進委員による企画を利用者様に提供していただいている。 | 平成25年の開催回数が4回、地域包括職員の参加が1回となっている。議事録は、市介護保険課へ送付している。会議では、地区委員から緊急時の避難施設にビニールハウスの利用が提起されている。 | 運営推進会議の開催数や行政の参加が不足しており、年6回開催、行政等の参加4回の実施に向けた取り組みの強化を期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の報告を定期的に提出しね協力関係を築いている。 | 市が主催する健康教室に、入居者も参加している。FAXやメールで研修計画の情報が入ってきており、職員の研修に活用している。市と連携して、中学生の体験学習を毎年実施している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 管理者及び全ての職員が身体拘束をしないケアの実践をしている。 | 行政からの資料を基に、勉強会を実施している。入居者本意の行動を大切に、制止するような言葉は使わないことを職員同士が意識し、お互いに注意合っている。無断外出の場合は、黙って後をついて行き満足するまで付き合うこととしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ホーム内にポスターを掲示し虐待の防止の徹底をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 丁寧な説明を心がけ、利用者本人やご家族にしっかりとした理解と納得を得た上で契約締結している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 行事等に参加していただき、意見や要望を気軽に話せる機会を設け、運営に反映させている。また、面会時にも施設側に対し個別にお話ができるよう配慮し、生活するうえで利用者家族も不安がないよう努めている。 | 訪問が定期的でない家族もあり、要望等が聞けない場合もあるが、入居者の日常について毎月報告している。要望は季節に応じた衣替えが多く、玄関に設置した意見箱への投函は無い。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 風通しのよい関係構築に努め、定期的にミーティングだけではなく、常時意見交換を行えるようになっている。 | 年3～4回、時間外に職員同士のコミュニケーションの場をつくり、気軽に何でも言い合えるようにしている。四季に応じたリビングの模様替えや窓から見える季節を感じられるトマト・西瓜等の栽培は職員の提案である。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が働きやすい環境や情景の整備につとめ、スキルアップした職員には昇給を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部及び外部研修をし、OJTに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協会との研修を通じ、交流している。地域の他業種介護事業所とも交流を深め、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ホームでの生活に慣れていただくため個別に対応し、本人のペースに合わせて不安を取り除く支援をしていく。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所初期の状態を毎日連絡をとり良好な関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 個々のケースに合わせ、できる限りニーズに対応し支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家庭の延長と考え、個人の残存能力のもとに出来る範囲で家事等手伝っていただいている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 連絡を取り合い、良好に関係を築いている。町内で家族とお会いするケースもあり、その際は簡単ではあるが近況を報告し、また近く来所していただけるようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | これまでの本人の生活を尊重し、馴染みの人との関係が途切れない様支援し、定期的な墓参り等の支援に努めている。 | 入居者が、生業としていたお菓子屋を見たり、行商をやっていた人には、行商の通り道を辿って懐かしんだりしている。かつて一緒に暮らした人が夢に出てきた、と言ってその人のお墓参りに行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 孤立することなく職員が会話等の間に入り、良好な関係に努めている。また耳が不自由な方などさまざまなケースにも柔軟に対応できるようにスタッフも心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても、来所していただいたり、訪問したりして関係を保っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 通院や買い物、理美容等は本人の要望を第一に個別に対応している。 | 入居時に把握したアセスメントシートや家族からの聞き取りを基に、その人の内面を押し量った対応をしている。単にソワソワしているからトイレ、と決め付けしないで優しい声掛けで思いを掴んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 長年の生活歴や顔馴染みの生活環境を考慮し、サービス利用の経過等の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 常に変化に気づき、気配りをし、観察を怠らず現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員ミーティング等で十分話し合い、現状に即した介護計画を作成している。 | 日々のケア記録を基に、毎月モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。モニタリングの一つとして、毎月塗り絵コンテストを実施し、色使いの変化から認知症の状況変化を把握している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員間で情報を共有しながら統一したケアができるように介護計画の見直しやスタッフミーティングで情報共有し取り組んでいる。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人又は家族の希望があれば、希望に即した形で対応し、なるべく本人や家族が満足していただけるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアの受け入れや地域の各機関を把握し必要に応じ、協力を得ながら支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 嘱託医や協力医療機関との連携を密に取り、適切な医療を受けられるように支援している。 | 医療の受診については、基本的に職員が対応している。歯科受診車による往診があり、車内で治療等が可能である。口腔ケアは、日本訪問歯科協会からの資料と歯科衛生士の指導により、職員が実施している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 定期受診、日常の状態の気づきを事業所協力衣料機関、又は、個々の医療機関の看護職員と相談し支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者様が入院された場合、その状態を常に把握するため情報を交換し、早期退院出来るように病院関係者と良好に保っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期のケアに対する指針をつくり取り組んでいる。 | 協力医による24時間対応が可能となっている。これまでに、10名程度の看取りを実施しており、全て家族に対する説明は協力医の参加を得て「重度化・終末期ケアに関する指針」により、実施している。本年2月にも看取りをしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防署等の研修を受け、実践力を身に付けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 男性職員が地域の消防団に参加し、日頃から防災に努めているほか、災害対策として消防署の指導を受け、定期的に避難訓練をおこなっている。 | 年2回の総合防災訓練を実施している。消火設備の状況は、自動火災通報装置はあるが、スプリンクラーについては建築規模が設置基準未満のため設置していない。いざと言う時の地域の協力体制はある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 自尊心を傷つけることがないよう、細心の注意を払いつつ、方言を交えたごく当たり前の会話を通じ、生まれ育った地域での生活の継続支援を実践している。 | 入居者一人ひとりの個性を把握し、その人に合った声掛けをしている。人によっては、「お盆、餅、墓参り、実家」等が不穏となる可能性の高い言葉となっている。トイレ利用には必ず付き添い、プライバシーを守っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 話がし易い環境を阻害することがないよう、自己決定できるように働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個人のペースに合わせて希望に沿って支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 偏った服装にならないよう注意し、おしゃれを楽しむことができるよう要望を聞き実践している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 地域に根付いている食文化をベースに好みや要望を取り入れたメニューづくりをしている。また食前・食後の準備等は利用者様と職員で行っている。 | 食事介助の人はいない。調理は、栄養士がチェックした献立を使い、月に1回選択食の日がある。誕生日や季節ごとの行事食では、回転寿司の人気の高い。食堂テーブルは、車椅子を考慮して高さが2種類ある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 健康状態に留意し、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯科医院の指導を受け適切に口腔ケアをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンの記録を基に排泄の自立にむけて支援している。 | 水分摂取と排泄の関係を、個別ノートで管理している。日中帯は、排泄表による早目の声掛けで自立に向けた対応をしている。夜間帯は、季節によってオムツ(冬季)、リハパンとパッド(夏季)の使い分けをしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 医師との情報交換し、飲食物の工夫や運動への働きかけをしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人ひとりのタイミングを見ながら楽しく入浴できるように支援している。 | 入浴は2日毎で、足浴と清拭を随時行っている。女性同士仲の良い二人で入る場合もある。長湯の人、烏の行水的な人、午前中を希望する人、会話と笑いで楽しむ人、その人に合った入浴が行われている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 状態を観察し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。昼夜逆転の利用者に対しても、無理に寝せることは行わず、安心できる環境整備や安定した精神状態になるまで寄り添うケアで対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が仕分けから管理し、服薬時には飲み違い・飲み忘れ等のヒューマンミスが起きないように複数人の日勤帯職員で確認をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や力を活かした役割を發揮できるように働きかけ、外出等で気分転換の支援をしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日常的な買い物の手伝いをさせていただいたりし、支援している、又、家族に協力をいただき出かけられるように支援している。 | 家族の協力を得て、外食や墓参りの人もいる。家族の協力を得られない人にも考慮して、外出に誘うなどしている。季節毎の遠出やこれまで7年の歴史を持った同法人内他施設との敬老会の交流は、楽しみの行事である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理はしていないが「お金を持つ大切さ」については希望や力に応じて柔軟に対応し支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 自由に出来るよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花や歳時記に合った飾りつけをし、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 一般家庭の雰囲気を持った食堂と調度品、窓から見える季節を感じる風景は、入居者の癒しとなっている。敬老会等での楽しい表情のスナップ写真や入居者全員が正月に書いた書初めが壁に貼っており、賑やかな共用空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルの座る位置などを工夫し居心地の良い空間をつくれるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人が馴染みの物を持ち込んでもらい、居心地の良い空間を制限なく作って頂けるようにしている。 | 居室の入口に、A4版の紙に名前を書いた表札と毎月テーマを決めてつくる塗り絵をセットに表示してある。室内の温度調節はエアコンで、家族写真や趣味の作品が飾られ、落ち着いた空間になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご自宅に戻られても安全な暮らしが出来る様に必要な場所に必要な手すり等を取り付け工夫している。 | | |